

社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

2005年度事業報告

概要

2005年度末のフライヤー会員登録者は14,413名で、昨年度に比べ9%減少しました。

これは生活様式・趣味の多様化によるもので、心配された他団体の影響は最小限度にとどめることができたものと思われます。しかしながらフライヤー会員の長期的減少傾向に歯止めをかけ、上昇に転じさせることが我々の緊急の課題であることは言うまでもありません。

一方、技能証発行実績は、HG技能証269枚(対前年比-32%)、PG技能証2004枚(同-3%)、MPG技能証110枚(同+144%)でした。HG技能証発行の減少は、新規愛好家が増えていないことが原因ですが、PGが同様の事態に至らないよう統括団体としての責務を改めて認識する必要があります。

このような環境下で、2005年度事業は、次の重点課題を中心に実施いたしました。

1 JHF収支バランスの改革

2004年度に拡大した収支のアンバランスを改善するため、運営経費を大幅に削減しました。

具体的には、1 常駐理事の廃止、2 事務局の移転、3 理事・委員の日当返上とメール会議の促進、4 事業費(スポーツ地域振興費、JHFレポート発行費など)の削減を図るとともに、5 共済会終了(追加の支出をしない)を決定、且つ実行しました。

この結果、JHFの収支バランスは、2005年度決算に見るとおり、一時の危機的状況を完全に脱却し、2006年度は本来の普及振興事業費を確保できるようになりました。

2 効率的な普及振興事業の実施

- 1) 教員検定会を全国で随時実施できるようにしました。この結果33人が検定会を受検し、23人がJHF教員資格を新たに取得しました。
- 2) JHFスクール・クラブ通信を発行し、全国約370のスクール・クラブと直接コミュニケーションが図れるようにしました。
- 3) これからパラグライダーを始めたい方の専用サイト「パラグライダー全国優良スクール」を立ち上げました。優良スクールの支援につながることが期待されています。
- 4) 事故統計データ収集と重大事故調査を実施し、事故防止に努めました。
- 5) フライヤーのための団体傷害保険「JHF総合保障制度」を開始しました。

3 特記事項

- 1) 第29回鳥人間コンテスト選手権大会を協賛
7月16日～7月17日 滋賀県彦根市
- 2) 2005年スカイレジャージャパンに参加
11月23日～11月24日
- 3) スカイスポーツシンポジウムを協賛

12月3日～4日 日本大学理工学部(駿河台)

事項別状況

1. 組織

(1) 会員数

- ア 正会員 47名
- イ フライヤー会員 14,413名(2006年3月末有効登録数)
- ウ 賛助会員 6名

(2) 役員構成

8名(内会長1名、副会長1名) 監事 1名 (2006年3月末現在)

2. 会議等の開催

(1) 総会

2005年度	6月通常総会
開催通知	2005年5月19日
開催日	2005年6月16日(木)13:00～17:00
開催場所	新宿スポーツセンター
議案	第1号議案 2004年度事業報告の承認について
	第2号議案 2004年度決算報告の承認について
	第3号議案 2005年度事業方針修正
	第4号議案 2005年度補正予算案

(2) 理事会

ア	第1回理事会	開催日	3月28日
イ	第2回理事会	開催日	4月20日
ウ	第3回理事会	開催日	5月12日
エ	第4回理事会	開催日	6月16日
オ	第5回理事会	開催日	7月14日
カ	第6回理事会	開催日	8月26日
キ	第7回理事会	開催日	10月14日
ク	第8回理事会	開催日	11月10日
ケ	第9回理事会	開催日	12月8日
コ	第10回理事会	開催日	1月27日
サ	第11回理事会	開催日	2月21日
シ	第12回理事会	開催日	3月23日

(3) 委員会等

電子メール会議を実施し、経費節減に努めた。

- ア ハンググライダー競技委員会 競技会開催時に実施
- イ パラグライダー競技委員会 12/2、競技会開催時に実施

ウ	補助動力委員会	11/3
エ	教習検定委員会	4/27、8/3
オ	安全性委員会	
カ	制度委員会	
キ	選挙管理委員会	
ク	広報出版部	5/18、1/6

3. 事業の実施状況 (06/3 末)

(1) 一般への普及振興活動

- ア 公共機関への JHF レポート 送付先：39 機関
- イ インターネット情報配信「サーマルネット」の登録者数 約 480 人
- ウ 都道府県連盟事業費の交付

(2) フライヤー会員登録

登録数： 7,205 人 (新規・更新)

(3) 技能証発行

- ア HG： 209 枚
- イ PG： 2,004 枚
- ウ PW： 110 枚 (MPG 技能証)

(4) 競技会の公認

- ア HG： 16 件 (内ホコリー： 4 件)
- イ PG： 18 件 (内ホコリー： 1 件)
- ウ HG・PG 同時開催： 3 件
- エ MPG 1 件

(5) 競技会の開催

- ア HG：
 - クラス 日本選手権、2005 年 4 月 30 日～5 月 5 日、岩手県遠野市
参加 63 人、日本選手権者：不成立
 - クラス 日本選手権、2005 年 12 月 21 日～12 月 25 日
神奈川県秦野市 参加 8 人、日本選手権者：板垣直樹
 - ハンググライダーシリーズ：有成績者数 121 名 (1 位：大門浩二)
 - クロスカントリーリーグ (1 位：氏家良彦)
 - クロスカントリーリーグ・女子 (1 位：小間井みゆき)
- イ PG：
 - 日本選手権、2005 年 10 月 8 日～12 日、茨城県足尾エリア
参加 85 人、日本選手権者：不成立
 - ジャパンリーグ・ワールド：有成績者数 74 名 (1 位：若山朋晴)
 - ジャパンリーグ・ナショナル：有成績者数 86 名 (1 位：若山朋晴)
 - ジャパンリーグ・女子：有成績者数 10 名 (1 位：平木啓子)
 - ジャパンリーグ・国際選抜：有成績者 50 名 (1 位：若山朋晴)

クロスカンントリーリーグ（1位：中川喜昭）

ウ 補動動力：

JHF モーターパワリング選手権、2005年11月3日～6日

徳島県吉野川市鴨島県民グラウンド 参加33人

MPG 選手権者：オープンクラス1位 佐藤賢治

(6) 広報誌の発行

JHF レポート発行 1回/年 15,640部

(7) スクール・エリア情報の収集及び公開

ア スクール登録 115件

イ 優良スカイレジャーエリア認定 0件

ウ ウェブサイトエリア情報掲載 153件

(8) 普及活動

ア 機体型式登録 34件（HG：1，PG：33）

イ レジャー航空無線貸与 延20件 1,470台

(9) 海外関係団体活動

CIVL 総会 2005年2月10日～12日 スイス 出席者：デリゲイト岡芳樹

(10) 世界選手権へのチーム派遣

ア 2005年HG Class 世界選手権

1月6日～19日、ハイ オーストラリア、参加メンバー：8名

ウ 2005年PG 世界選手権

3月11日～27日、バラダレス ブラジル、参加メンバー：9名

以上

添付 2005年度 委員会等活動報告補足

2005 年度：委員会等活動報告補足

H G 競技委員会

- 1) ルールブックの改定
ハングシリーズ競技規程の一部改定
- 2) 公認大会の審査及び公認
大会主催者からの公認申請に対して、ルールブックに準じて大会の審査及び公認を行った。
- 3) ハンググライディングシリーズ及びクロスカントリーリーグの管理運営
ハンググライディングシリーズ規程に則り、登録者名簿の管理及びポイントの集計を実施、
又国内クロスカントリー記録の登録及び集計の実施。
- 4) 表彰 ハングシリーズ対象：上位3位、クロスカントリーリーグ対象：男女2名

P G 競技委員会

- 1) ルールブックの改定
Jリーグ競技規程の一部改定、アキュラシー競技規程の制定
- 2) 公認大会の審査及び公認
大会主催者からの公認申請に対して、ルールブックに準じて大会の審査及び公認を行った。
- 3) Jリーグ、SPS 及びクロスカントリーリーグの管理運営
Jリーグ、SPS 競技規程に則り、登録者名簿の管理及びポイントの集計を実施、又国内ク
ロスカントリー記録の登録及び集計の実施。
- 4) 表彰 ジャパンリーグ：ワールドポイントランキング、ナショナルポイントランキング、
国際大会選抜ランキング、女子ポイントランキング、いずれも上位3位
クロスカントリーリーグ：上位3位

教習検定委員会

- 1) 教員検定会の開催要項の変更
- 2) 教員検定会の開催機会について、検定員・受検希望者の都合で随時全国で行うシステム
に変更。これにより、33名が受検、23人の新しい教員が誕生した。
- 3) 北海道HG連盟の要請を受けて、安全セミナー、教員更新講習会に講師を派遣。

安全性委員会

事業費の節約と委員会活動を補うために、理事会も積極的に調査活動に協力しました。

事故の調査を報告だけで終わらすのではなく、関係者の協力をいただき事故防止の啓蒙に活用しました。

不明者の遭難・捜索には救助時間が重要になりますので、関係者が敏速に対応出来るようにマニュアル化しています。

制度委員会

理事会からの諮問、「技能証効力を距離により制限することの廃止」について精査し答申した。
概ね5kmから「管理された空域」への変更。

広報出版部

1) JHFウェブサイトの運営

ハング・パラグライディングのさまざまな情報を掲載した。

また、より見やすくするための工夫・掲載内容について検討した。

2) インターネット情報配信「サーマルネット」の活用

登録者（フライヤー）に情報を直接配信した。

JHFウェブサイト、専門雑誌等で登録を呼び掛けた。

3) JHFレポートの発行

一回のみ発行、フライヤー会員個々に郵送した。

4) 関連媒体への情報提供

ハング・パラグライディング関連雑誌に情報を提供した。

5) ロゴマークデザインの公募

JHF名称変更に合わせ、ロゴマークのデザインを募集した。

ロゴマークは2006年度通常総会で決定する。

6) スクール・クラブ通信の発行

ハング・パラグライディングスクール・クラブへの積極的情報提供。

月に一度発行送信（メール便）。

7) スクール紹介サイトの立ち上げ

ハンググライディングスクールを紹介するウェブサイトを立ち上げた。